

新総合計画調査特別委員会

(令和元年6月4日)

○ 森 康哲委員長

皆さん、おはようございます。

それでは、新総合計画調査特別委員会を開会いたします。

事項書に従いまして、次期総合計画の策定状況について調査を行ってまいります。

まず、部長よりご挨拶をお願いします。

○ 佐藤政策推進部長

皆さん、おはようございます。

○ 森 康哲委員長

おはようございます。

○ 佐藤政策推進部長

まず最初に、昨年度に引き続きまして、早速特別委員会のほうを設置いただきましてありがとうございます。ことし1年よろしくお願いたしたいと思います。

本日は、まず、今後のスケジュールのほうの確認と、それから、昨年、五つの提言というのをいただいておりますので、その提言に対する我々の考え方のようなやつを説明させていただきたいと思います。

それと、最後に、現在のその基本構想の構成の骨子案といいますか、そのあたりで将来の目指すべき都市像ということで、四つの都市像を今、検討しております。そういったことを示させていただきながら、ご意見をいろいろとお聞かせいただければと思っておりますので、ひとつよろしくお願いたします。

○ 森 康哲委員長

それでは、資料の説明を求めます。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

それでは、まず資料のほうでございますけれども、タブレットのほう、コンテンツ一覧

を開いていただきまして、01の令和元年6月4日をお開きいただきますでしょうか。02の資料、新総合計画特別委員会資料というところをお願いいたします。

もしタブレットを見れない方は、紙のほうもご用意してありますので、よろしく願いいたします。

まず、開いていただいて、表紙49分の1ページのところでございます。

本日は、まず、次期総合計画策定に向けた提言、その検討状況についてと、2番として人口等の動向、3番に市民生活に関する都市間の比較、それから、別紙としまして、次期総合計画の策定スケジュール、それから全体構成の骨子案と五つの資料をご用意させていただいてございます。

まず、1番の検討状況に入る前に、紙のほうの資料で、次期総合計画策定スケジュールというものをA3の資料でご用意しています。こちらに、まず基づきまして説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、これまでの振り返りということもございまして、まず、平成30年度を左側の欄に設けさせていただいています。2018年度、一番上段に議会のほうの欄を設けてございます。こちら、昨年、平成30年8月の定例月議会におきまして特別委員会を設置いただきました。計8回の委員会を開催していただきまして、現総合計画、今の総合計画の評価、検証を集中的に行っていたところでございます。

その集中的な審議に基づきまして、3月26日に市長への提言書ということで議長のほうからお渡しをいただいております。その五つの提言について、後ほどご説明、その検討状況についての説明をさせていただきたいと思っております。

私ども、並行しまして、21名の委員から成る策定委員会を3回開催するとともに、市民意見の聴取というところで、11月25日にキックオフシンポジウムを行う中、また、市民意識調査ということでアンケート等を行ってまいりました。

また、高校生におきましては、アンケートとともに懇談会の開催というものを進め、また、当然、庁内の策定体制としまして、若手で構成する分野別の政策検討会議というものを設けまして進めてきたところでございます。

これを受けて、2019年度でございます。部長のほうからもありましたけれども、今回、特別委員会を設置いただきましてありがとうございます。今後、特別委員会を行っていただきまして、私どもとしましては、11月定例月議会におきまして基本構想と基本計画の——議会基本条例に基づくものでございまして——審査、議決をいただきたいというふうに

思っております。

並行しまして、その基本構想・基本計画を踏まえまして推進計画の案を編成していきまして、1月の議員説明会に説明させていただきまして、2月の定例月議会の当初予算に反映していければというふうに考えているものでございます。

一方、並行しまして、策定委員会のほうも第6回まで開催するとともに、地域との懇談会——きのうから海蔵地区のほうでタウンミーティングが始まりましたけれども——回ってまいるのと同時に、さまざまな関係団体との懇談会というのも踏まえながら策定のほうを進めていきたいと思っております。

キーポイントとなるのが、やはり9月にパブリックコメントをかけていきたいというふうに考えてございます。11月定例月議会に向けて、9月のパブリックコメントということで、特にこの特別委員会では、次の事項にもございますけれども、6月から7月にかけて、私ども各部局を呼んで、今の検討状況等をご説明し、ご議論をまずいただきたいなと思っております。これはもう集中的に6月、7月でやっていければなというふうに考えてございます。

それを受けまして、6、7月の集中的な審議を受けまして、私どもで総合計画の素案といたった形で取りまとめをしていきまして、8月に、パブリックコメント前にも、もう一度集中的な審議をお願いしたいと。

それから、パブリックコメントを9月に終えてから11月定例月議会の議決前までの間に、さらに次期総合計画を取りまとめていくに当たりまして皆様の集中的な審議をいただきたいというふうに考えてございます。大きく6月から7月と8月、それから10月から11月にかけてという三つの山を考えてございますので、皆様のほうのご理解をお願いしたいと思っております。

それでは、次に、もう一度検討状況等を説明する前に、3月にもご説明させていただきました総合計画の骨子案のためのたたき台というものの、A3資料の紙になります。こちら、今、私どもとして考えている構想の計画の案とたたき台ということで、まず簡単にご説明をさせていただきます。

まず、左側のところでございますけれども、当然ながら、キーワード——いろんなキーワードございますけれども——を踏まえた将来都市像、これ、後ほど、きょう、初めて皆様に私どもとしてはこう考えているというものをご説明させていただきたいと思っております。

今回、現総合計画にはなかった考え方として、やはりどのような状態をこの10年間目指

していくのかということで、中段どころにある未来地図をどう描くということで、未来予想図といったものを示していきたいなというふうに考えてございます。

また、当然ながら、基本的な考え方ということで、1番下に——左側——ございますまちづくりの基本的な考え方という五つの視点を踏まえながら取り組んでいくというふうに行きたいというふうに考えています。

それを踏まえながら、当然——一番下ですけれども——連携・協働による生活の質の向上ということで、市民、事業者、市が連携・協働して生活の質を高めていくといった視点と、地域資源等を活用した都市の発展というのを踏まえて、オール四日市で取り組む協働・共創のまちづくりというふうなところを踏まえながら、また一方で、SDGsと持続可能な社会の実現を目指してというところも踏まえながら、右側にある全体構成骨子案にあるようなまとめ方をしていければなというふうに考えてございます。

この骨子案でございます基本構想におきましては、将来都市像を示していくとともに、基本目標を示していくと。その基本構想を実現するために、下の基本計画というところでございます、こちらのほう、現総合計画のほうは5分野に基づいて整理をさせていただいてございましたけれども、わかりやすく八つの分野別基本政策ということで丸く書いてございますけれども、これらが連なって全ての施策につなげていくというところで、八つの分野を考えていきたいと思っております。

なお、こちらのほうは、議会のほうからもいろいろご指摘いただいているとおり、5年ごとでアップデートをしながら進めていければなというふうに思っております。

また、もう一点、今の現総合計画と違うところとしまして、やはり縦割り行政の弊害というのをいつもご指摘いただくところでございます、それらを払拭するためにも重点的横断戦略プランということで、三つのプランを立てて重点的に進めていきたいというのが、現総合計画の構成とは違った内容となっております。こちらについても5年ごとに見直しをしていければなというふうに考えてございます。

こちらは、私どもの全体構成の骨子案というのを念頭に、タブレットのほうの資料をご説明させていただきたいと思っております。

先ほど開いていただきました49分の1ページの資料の次の、49分の2ページをごらんいただけますでしょうか。49分の2ページになります。よろしいでしょうか。

こちら、総合計画の特別委員会、昨年度、8回実施していただいて、提言をいただいた項目の検討状況ということで整理をさせていただいております。

まず、一つ目の提言でございます。次期総合計画では目的を達成するための具体的な目標を示し、より実効性のある計画とするべく検討することというようなご提言をいただいております。

こちらの検討状況としましては、①に、まちづくりビジョンの共有と目標設定というところで、やはり社会経済環境が大きく変化する中、明確なビジョンを持って未来予想図を描き、「ありたいまち」の姿を示していきたいということが、先ほどの構成骨子案で示したとおりのところでございます。

また、各分野の基本的政策ごとに目指す姿と目標というものを明確に打ち出していきたいと思っております。

また、②番に、目標に対する進捗状況を測るための指標の設定ということで、先ほど申しました八つの分野の基本的政策ごとに、下の指標の設定イメージとございますように、指標を説明するとともに、現状値と方向性といったものを示していきたいなというふうに考えてございます。

タブレットのほう、1枚めくっていただきまして、49分の3ページをお願いいたします。

二つ目の提言、現総合計画において取り組み半ばとなっている施策等について、行政の継続性を十分意識する中で社会情勢の変化に対応の上、今後の計画につなげるべく検討を進めることという提言でございます。

検討状況の1としましては、現総合計画の検証、総括から得られた検討課題の整理ということで、昨年度の特別委員会の提言書、報告書、それから21名から成る総合計画の策定委員会の方々からのアイデアや意見、さらには、市民のアンケート等で8800名の方からご意見をいただいております。

これらを十分勘案した上で計画づくりを進めていくということは、申し上げるまでもありませんが、そのとおりに進めていくというところでございます。

それから、②番に、提言の中で、社会情勢の変化というものがございます。そこで、時代の潮流と社会経済環境の変化に的確に対応するためということで、基本的には三つのキーワード、長期展望を見据えた戦略的な計画、それから時代に即応する機動的な計画、新しい発想に基づく創造的な計画というところをキーワードに策定を進めていきたい。

また、先ほど申しましたとおり、一番下に書いてあるんですが、5年後に基本計画が適当であるか否かを検討して、必要な見直しも行っていくということ、総合計画の冊子のほうにもその旨を記載していきたいと考えてございます。

続いて、タブレット49分の4ページをお願いいたします。

こちら、提言三つ目、市民自治基本条例の趣旨を踏まえ、まちづくりに係る行政、市民、事業者などが担う権限と責務についての考え方を整理する中で、次期計画を検討するという提言でございます。

①番として、市民自治基本条例の理念を踏まえた総合計画づくりということで、当然、オール四日市で取り組む協働、共創のまちづくりを基本的な考え方としていくことということと、市民自治基本条例に、枠内にありますような主なポイントが書いてございます。それを踏まえて進めていくということ。

それから、②も同じように、オール四日市で取り組む協働・共創のまちづくりということで、八つの分野において、それぞれ市民、事業者、市がどのような役割、責任を果たしていくのかというところを意識しながら計画を進めていきたいと考えてございます。

済みません、タブレット49分の5ページをお願いします。

こちら、四つ目の提言としまして、目標達成に向け、業務上の所管に縛られることなく、必要に応じて全庁的な課題として部局横断的に施策展開を行うことを念頭に、都市経営の視点を忘れず、次期計画の検討を行うことといった提言でございます。

こちらにつきましては、先ほどもご説明させていただいたとおり、重点的横断戦略プランというところで、「ありたいまち」の実現に向けまして、特に力を入れて取り組むべき課題につきまして、市全体一丸となって分野横断型の戦略プランというのを重点的に推進していきたいというところでございます。

破線枠内にあるように、三つの重点横断戦略プラン、こちらについては後ほどご説明させていただきます。

また、②の都市経営の視点を十分に踏まえた計画づくりというところで、本市の強みを生かした持続可能な都市経営に意を配した計画づくりを進めていきたいと考えてございます。

そして、最後になります。49分の6ページの五つ目の提言としまして、技術革新（AI技術等）というところ、それから持続可能な社会を実現する新たな考え方、SDGsについて調査研究を進めて、それらに対応する中で市民サービスの向上を図ることを念頭に検討を行うことといった提言になってございます。

まず、1番のAI等の積極的な社会実装の推進といったところで、こちらにつきましても、新時代のさまざまな技術革新におきまして社会実装について、町ぐるみで積極的に推

進んでいくことができる計画づくりを進めていきたいということ。

それから、②番の持続可能な社会を実現する新たな考え方、SDGsを踏まえた計画づくりということで、国連の目標であるSDGs、17の目標というものが示されています。また、169のターゲットというのがそのSDGsの全容でございますが、当然、このSDGsという共通の物差しを踏まえた総合計画の策定に取り組んでいきたいというふうと考えてございます。

こちらが提言に対する検討状況でございます。

続いて、49分の7ページを見ていただきますと、こちらが先ほど説明しましたSDGsの17の目標に対して自治体に取り組むべきこととしてまとめてございます。

こちらは、世界的な自治体の最大組織であります都市・自治体連合というものが提唱する方針というものがございます。これは、あくまで行政向け、自治体向けの方針をまとめていただいているものでございます。

こちらのほうを、49分の7ページから49分の10ページまでまとめさせていただいています。

なお、後ほど説明させてもらいますけれども、タブレットの49分の26ページからが、その英文の本文をつけさせていただいていますので、また参考に見ていただければと思います。

ちょっと時間の関係もありますので、49分の11ページをまずごらんください。

こちらからは、前回の特別委員会で2月に出させていただいた基礎資料となっております。説明のほうは割愛させていただきますが、49分の11ページから人口等の動向につきまして記載させていただいています。

それから、49分の19ページまで行っていただけますでしょうか。

こちらのほうが、市民生活に関する都市間比較についてというところで、近隣都市であるとか同格都市、類似都市といったところと四日市市のその比較というものをレーダーチャートを使って比較させていただいたものでございまして、例えば49分の21ページをごらんください。

こちら、都市の安心度であるとか快適性、利便性、成長力、裕福度といった視点というか、比較項目に基づいて、全体の都市の偏差値を設けた中で数値化したものでございます。

これを見ていただきますと、四日市はある程度丸いような感じが見受けられるのかなと

いうふうに思いますが、例えば49分の22ページを見ていただくと、津市と桑名市、こちら、なかなかでこぼこのような状況。

それから、49分の23ページが三重県の近隣市町で、こちらも同様のでこぼこ感が見えるかと思います。

また、49分の24ページからが名古屋大都市圏の同格都市ということで、比較のほうを示させていただいてございます。

先ほどちらっと申しました49分の26ページが、先ほどの自治体連合の自治体向けのSDGsの提唱する取り組みをまとめてある英文の資料となっております。

以上がタブレットのほうの資料の説明となります。

続いて、済みません、ちょっとお時間のほう、大分たってしまいましたけれども、先ほど都市像を初めて出させていただきますというふうに申し上げましたが、紙のほうの資料で、A4の資料をご用意してあると思います。A4のほうですね。A3の次に。

こちら、私ども都市像として、現総合計画では、みんなが誇りを持てる四日市という一つの都市像でございましたが、抽象的ということもございまして、四つの都市像を案として示して進めていってはどうかという、あくまでご提案でございまして、一つ目としましては、四日市で子供を産み育てたい、四日市で学べてよかったと思える子供と家族に優しいまちづくりを目指したいというところで、「子育て・教育安心都市」というもの。

二つ目が、都市機能の集積、高次化、近未来技術の社会実装を進め、人の交流が仕事や魅力を生み出す好循環のまちづくりを目指したいということで、「産業・交流拠点都市」。

それから、三つ目としまして、豊かな環境を基本とした都市整備と防災力強化を両輪に、快適性と安全性、安心が高い水準で保たれたまちづくりを目指したいということで、「環境・防災先進都市」。

それから、四つ目、最後ですけれども、生涯にわたり健康で、暮らしの中で楽しみ、幸せを実感できるまちづくりを目指したいというところで、「健康・生活充実都市」という四つを都市像としてはどうかということを考えてございます。

1枚めくっていただきまして、先ほどの都市像と戦略プラン、分野別基本政策の関係性を示した資料となっております。

先ほど説明しました四つの都市像が――先ほども何遍も申しましたが――三つの戦略プランというところにどうつながっているか、また、分野別基本政策にどうつながっているかというところを整理したものとなっております。

この重点的横断戦略プランというものがどういうものかというところで、次の資料をお願いいたします。A4資料で、こういった資料があるかと思えます。

先ほどの三つの重点的横断戦略プランの一つ目としまして、「子育てするなら四日市プラス」ということで、これまで他市に劣っている部分を引き上げてきた子育て施策ですけれども、これからはさまざまな施策をプラスして、子育て世代から選ばれる、誰もが安心して子育て・子育てができるまちづくりを進めていきたいというところで、子育て支援はもちろんのこと、教育支援や地域コミュニティーなどさまざまな分野から横断的に施策を進めて、将来都市像の一つ、「子育て・教育安心都市」の実現に向けて取り組んでいきたいというもので、記載の項目については、検討課題を例示しているということでご理解のほうをよろしくをお願いします。まだ確定したものではないということでごさいます。

続いて、二つ目の重点的横断戦略プランとしまして、「リージョン・コアYOKKAICHI」と、来たくなる、働きたくなる、住みたくなるというところの横断プランでございます。こちらにつきましては、リニア中央新幹線の開通で、東京一名古屋間が40分で結ばれ、さらに、リニアが大阪まで延伸すると、人口約7000万人を超える巨大都市、いわゆるスーパーメガリージョンが形成されます。

そうした状況の中で、名古屋都市圏の核となり、存在感を持つため、多様な都市機能が集積し、人でにぎわい、まちの魅力にあふれるまちづくりを進めていきたいと考えてございまして、リージョンという言葉は地域、そして、コアという言葉は核という意味がございます。存在感のあるまちには、人、物、活力が集まり、好循環が生まれます。都市機能の集積、高次化、近未来技術の社会実装を進め、人の交流が仕事や魅力を生み出す好循環のまちづくりとして「産業・交流拠点都市」というところで、あわせて豊かな環境を基本とした都市整備と防災協力、強化を両輪に快適性と安全・安心が高い水準で保たれたまちづくりとして、「環境・防災先進都市」という都市像に向けて取り組んでいきたいと思えます。

そして、最後になります。

三つ目の横断プラン、「幸せ、わくわく！四日市生活」～健やかで楽しい人生100年をというふうに題しまして、人生100年となる超長寿社会の到来はすぐそばに来ているという中で、住みなれた場所で天寿を全うできるよう、いつまでも元気で活躍できて、暮らしの中で楽しみと幸せを実感できるまちづくりを進めていきたいということで、「健康・生活充実都市」の実現に向けて取り組んでいきたいと。これは市民生活の基本的な部分とい

うふうに考えてございます。

済みません、説明のほうは大分走りまわりましたが、以上となります。よろしくお願いいたします。

#### ○ 森 康哲委員長

説明はお聞き及びのとおりでございます。

ご質疑ございましたら、挙手にて発言願います。

#### ○ 豊田政典委員

説明ありがとうございました。

まず、これを見ているんですけど、基本構想と基本計画の関係性（案）というやつなんですけれども。それでもいいし、将来都市像、似たようなやつでもいいんですけど。一番左に四つの将来都市像というのがありますよね。これが2ページでいうところの目的を達成するための具体的な目標との絡みね。特別委員会の提言（1）の、つまり四日市の未来予想図という言葉を使っていますが、この10年後にどういうまちにするんだというのをあらわしているのかどうか、これをまず教えてください。

#### ○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

先ほど豊田委員からいただいた、今後の総合計画の全体の骨子案の基本的なお話ということでございますけれども、まず、四つの都市像というのが、A3資料の別紙2というのがございます。

こちら、まだ確定したわけではございませんけれども、この一番上に基本構想があって、その下に将来都市像というのがございます。こちらを、今のところ、四つにするか、その四つの上の一つ目標を設けるかというところは、これから皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいかなというふうに考えてございまして、基本的には、私どもとして将来都市像を四つ、それに向かって分野別政策と重点的横断戦略プランをつなげていきたいというのが、先ほどのA4の関係性と示した資料でございます。

それで、資料の2ページの指標のほうの話になりますかね、こちらにつきましては、各分野、八つの分野がございまして。こちらに、当然、基本的政策というのを幾つか設けていくこととなります。その基本的政策ごとに、これまでの総合計画ではなかったんですけれ

ども、指標を設けて、進捗管理を行っていきたいという全体の構成というふうに考えてございます。

#### ○ 豊田政典委員

ある程度理解できましたが。

ここに詳しく書いてあるんですね。四つの都市像、将来、設定して、説明が将来都市像というのに書いてあると。そこに至るための指標は細かくある。それはわかりました。

それに加えて、重点的横断戦略プランというのが三つあって、「子育てするなら四日市プラス」かな、「リージョン・コア」、「幸せ、わくわく」というのが加わって、感想めいた話ですけど、三つ目の「幸せ、わくわく！四日市生活」というのは、説明もあるんですけど、まず、この言葉だけではなかなか中身が理解しにくい、タイトルになっているかな。ちょっと僕のセンスでは気持ち悪いタイトルかなという感想を述べておいて、もう少し言葉、これ、大事なんでね。標語なんで、少し再検討いただきたいなど。率直に思いましたので、まずは言うておきます。

以上。

#### ○ 森 康哲委員長

他にございますか。

#### ○ 川村幸康委員

前回の特別委員会で、前回の総合計画の総括的なものもしたというお話やったんだけど、それで幾つかの提言というか。ただ、これが本当にその提言どおりの検討されたんかどうなんかということをもうちょっと含めて説明をするべきかなと思ったんです。

例えば提言で、より実効性のある計画すべく検討することということなんやけど、それがどういうことを実効性のある計画としてしたんかって説明がないし、ここで言うとな、2番目の提言の、取り組みが半端になっておる施策ということは課題があるということやわな、問題があるということやわな。そうしたら、その問題は何やったんかというのが全然、これは示されていない。

そういうことやと思うんですよ。だから、前回も特別委員会である程度言ったのは、過去の政策の中で、全てそうしたら満足に全部できているかできないかというのは、できた

ものもあればできなかつたものもあるわ、結果的なもんやで、あるけど、そうしたら、なぜできなかつたんかというところを考えると、そこを行政の継続性としてやるべきでしょうと。

わかりやすいハード的なものであったら、今回出てきたけど、学校問題なんかは前回の総合計画、うたってあったわけやな。それが、ようやく今、あの形で、ここへ来て落ち着きかけてきたとか、そういったことも含めると、どれが今までやっておってもあかんのか。

例えば私は、やっぱり人権とか、同和も含めて障害者、それから、ハンセン病の関係な。それからもう一つ、やっぱりここへ来てやっぱりもう一遍取り上げやなあかんのは、宗教を含めた部分の問題の行政対応をどうするかということやっぱりよう考えやんとあかんかなと思っています。それから、四日市公害の公害患者の人権、そういう何というのかな。

ここに載ってきておるのは、「わくわく」の中に高齢者の何とかとかという話が出てきておるけど、高齢者の人権かな。何かどこか書いてあったな。高齢者がふえてきて、「わくわく」のところにか。高齢者の虐待や暴力の防止とか、外国人ニーズを踏まえた多文化共生の人権と書いているけど、これをどうしていくんかというようなことが全然。

10年前の総合計画の課題としてあったけど、何らされなかつたんが、今後、行政的にどうしていくんか。それは施策もやし、教育も施策やし、どういったものでやっていくかということが全く書かれていない。この辺やっぱり手薄いんで、もう少しやるべきかなというふうに思っています。

特に、例えば事務次官の事件なんかあるわな、今、テレビできのうもやっているけど。それから、川崎の事件とか。あんなんをどう見ておるかなということなんやわ。ただ大都市で起きたというふうに見ておんのか。四日市でも起こっても不思議ではないようなことやわな。例えば新聞でよく見るようなの、子供の虐待死、子供の遺棄事件かなんか、殺害の事件は四日市でもあったわね。外国籍の人やったけどな。そんなんを含めると、やっぱりどう施策的に取り入れるんかということやわな。

あなたら、ここにつながりを持つとかどうって言うけど、案外、行政のほうは弱者に対しては外へ外す旨が多いんやわ。外へ外さんように施策をどう持っていくかと。それは子供のいじめにもつながるけどな。

そういったちょっと、もうちょっと前回の、俺は人権、環境、平和あたりを軸にしてまちづくりしておったと思うんやわ。それが担保されて初めて、例えば産業、仕事ができるとか、幸せとか、子育てというところにつながると思うんやわな。そのベースが行政にな

いのにいくと、ほら、何となく今、世間騒がすようなことに、基礎基本の基礎ができていないのに、上だけ積み上げていくというような感じがぼっと説明を受けてしたんで。具体的に言うていくけどな、全然足らんところ。

ほうやけど、第一印象としたら、これでは少しやっぱり上辺を塗っただけ、物を上へ乗せていこうとしておるだけで本当の土台のところ、行政のやらかなあかんところが全然、総合計画が一番苦手な部分をそぎ落としたなって感じがしておる。本来、総合計画というのは、それがもとになってから、それでようしたもんで、こう積み上げますよということにまちづくりはしていくべきやなと思っておるんで。

まず感想。名古屋城でもあの石垣が大変なんやでな、名古屋城の上よりも。基本的に土台が大事なんやわ。まずはそんな感想です。だから、もう少し立体的に物を見てほしいな。総合計画を平面的に見過ぎやなと思うて。

#### ○ 佐藤政策推進部長

済みません。いろいろご指摘ありがとうございます。

確かに、今回お示しさせていただいてあるのは、本当にもうちよっとざっとした概要的なようなところしか見えていないと思います。

今、この4月からも、スプリングレビューとか、いろんなものやってきまして、今、一番最初に申し上げましたように、今回、こういう全体のビジョンみたいなのを示させていただいた中で、これからちょっと集中してそれぞれの各部局のほうにも入っていただいて、それぞれの部局の今後を考えていくと。

当然、その中にはこれまでの課題とか、そういったものも含まれた上での考え方というのを議論していただこうと思っていますので、その段階では、またご議論、いろいろご意見をいただければなというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

#### ○ 川村幸康委員

例えば具体的に言うとな、つくり方なんやけど、例えば障害者の問題でいうと、身体、知的やら、さまざまな問題の課題があるわね。障害者ってくくってしまうと平面に見えるけど、その中にぐっと立体があるわね。その立体のところをもんでいこうとするときに、今度、こっち来たときにはもう平面になって、こっち来たらもう線ぐらいにしか残っておらんのやわな、役所の総合計画って。

これ、こうやっていくと、いやいや、こうやって書いてあったんやけど、立体からこんなもんになってきたというんなら、仕事ぶりにもあれぶりにも実効性も担保されるんやけど、こっちのところでもうそれを置いてきておいて、そぎ落としておいて、こっちでこんなもんだけできましたというようなことになると、議会の特別委員会で私は発言しておったみたいなものになるんかなと。

だから議会の、この間、特別委員会で行政の継続性、十分に審議する中で、社会情勢の変化に対応で今後の計画につなぐべくというのは、そういう意味では、例えば横におる小川さんが水害のことをずっと言っておるわな。水のジャンルでも、ああいう水害のこともあれば、普通に降ったときの治山治水のこともあって、それぞれそういう課題があるやんか。そのように立体にしておいて、その立体のやつをこうやってくるといふんなら、これがどこへはまっていって、どこへ行くんやと、防災なんか、環境なんか、防災先進都市なんかというところの部分がちゃんとわからんと、それこそ何が、豊田さん言うように、やっぱり言葉は大事やで、立体が見えて、ここへ来ておるといふことになるような総合計画にやるほうのが、あなたらも仕事しやすいやろうし、より具体性があるや。だから、そういう意味では、余り抽象的なことをやらんと、個別具体的な政策から上へ上げてきて、こうやりましようといふようなことから行くべきやわな。

だから、もうちょっとあんたら勉強をせなあかんの違うかなと思ふことが、物すごく俺はある。きのうも俺、主宰しておって人権のあれがあったときも、行政も含めて学校の先生、大方、士農工商穢多非人が、おまえ、教科書でまだ載っておるといふておるんやで。あんたらもそうやろう。違うか。勉強してきたん。今やもう教科書にそんなこと載っておらへんで。ほうやで、今の行政の担当者、みんな士農工商穢多非人と思つてやっておるんねや。いやいや、だから具体的に言うてきておるのやさ。

○ 樋口博己委員

具体的な大枠の話をしていただきたいんですけれども。

○ 川村幸康委員

大枠の話やん。

○ 樋口博己委員

個別具体は、もうちょっと議論いただきたいと思いますけれども。

○ 川村幸康委員

どこが個別具体で、どこがあれなん。どうあかんの、それは、今の話が。

いやいや、だから、委員間の討議をしてもええと思っておるんで、俺は。

○ 樋口博己委員

総合計画はどうつくって、どうイメージしていくかという話を今しておるとおるんです。

○ 川村幸康委員

うん。

○ 樋口博己委員

川村委員は、個別具体的な積み上げるという話をされるんですけども、今の行政の説明だと、まずは大枠を出しましたと。それから、今後、各部門で個別のいろんな底辺の部分を議論お願いしますと。その上、その先に、もう一回、個別具体のベースがあった中で、全体ってどうするんだという議論かなと思っていますので。

ちょっと川村委員、先の結論的な議論をされてみえるので、ちょっともう少し前の議論いただきたいなと思います。

○ 川村幸康委員

はい。

○ 森 康哲委員長

ちょっと待ってくださいね。

きょうの一番の目的というのは、昨年度、諸岡委員長のもとで提言を出された内容について報告を受けて、また改選を受けて、この新しいメンバーで共有の知識として持っている。そのつくり上げた中でのその提言に基づいた中身を検証する中で質疑をしていただくというのがきょうの場だったと思いますので、それに沿った議論をお願いしたいと思い

ます。

## ○ 川村幸康委員

済みません。私の言葉が下手やったらごめんね。

私は、だから、この前回の特別委員会で、私なりに提言の内容を思っておったのは、例えばこういうメンバーがおって、それぞれがそれぞれの意見を持っておるとすると、行政が出してくると、大体真ん中あたりに平均点を置きますやんか。1から100までであると50ぐらいを平均点にしておいて、例えばまとめ上げるのにね、一つのを。そうすると、最初の25ぐらい削っておいて、こっちの上のほうの75も削っておいて、真ん中あたりの50点ぐらいで目標組んでやっていきましょうというつくり方も、行政は、前の総合計画で私はしたなと思っているんですよ。

そうすると、例えば、さっきの例え話でいくと、障害者といったところで、障害者イコール、そうしたらバリアフリーで、車椅子の人がバリアフリーになるぐらいのところをやればええやないかというような程度で私は進められてきたような気もしているわけですが、その施策の打ち方がな、総合計画でも。

そうではなくて、やはり障害者施策というのは幅広く厚みがあって、立体的なものであるべきやで、そうしたら、やっぱり立体的なものを認識しておって、それをつくってくるというのならええけれども、こういうやり方で決められていくと、それこそ何が、がばっと施策の課題の中で削り落とされてから来ると、どうしても、そうしたら、それを総合計画の中で拾い上げよって言うと、いやいや、それは総合計画の中では、そんな範疇じゃありませんわという話があったもんで、だから私は、前回の特別委員会で8回したときにも、そういう思いを込めてずっと発言しておったつもりでおったもんで。

だから、行政は上から見ておろしていくという話やろうけど、私からすると、最初にこの総合計画をつくるときにでも、その総合計画に乗っからななかなか施策として訴えられやんというのであれば、下のほうの立体のものもここへきゅっと、きちっと持ってきておいてくれよと、それで積み上げてくれないと、やっぱり大事なものが落ちていって、そこに、また逆に言うと、入らんだところが無理が来ておるなというのが、私は前回の総合計画の反省点かなと思うと、見た目にはみんなに施策は及んでいいなと思っておったけど、実際にやっていこうとすると、結構重要なことや大事なことが、その総合計画をつくっていく中でそぎ落とされたという感じがあるんで、前回の一昨年特別委員会の中では、そ

こらをそぎ落とすなど。樋口さんやら公明さんなんかよう言う福祉なら福祉のことなんかはそぎ落とすなど、もっとそれはそれで個別具体的、立体的なものを総合計画の中心に据えてやっていけさという思いで言うておるんで。

だから、私は、きょう説明を聞いていて、前回、ひゅっと思ったけど、特別委員会では、そういう思いで俺は言うておったんにしてはちょっと思いが伝わっていないで、伝えたいなと思って言っただけでな。そういう思いが私にはあるんやわ。

#### ○ 樋口博己委員

私も前回おりましたので、川村委員の議論はよく承知しておるつもりです。

きょう、全体的な説明があったわけなので、川村委員の思いは意見として出してもらうのはいいんですけど、それに対して、理事者に対して、これはどうなんだって理事者に問うても、なかなかきょうの段階でこうですという答えは出ないと思うんですよね。

だから、川村委員の思いとして、今後の進め方というか、感覚、施策の積み上げの考え方はご指摘いただくところまではいいと思うんですけど、そこから先に、理事者に質疑されても、なかなかきょう答えが出る話ではないのかなと思って聞いていました。

#### ○ 川村幸康委員

そこは言う必要はない。答えを言ってほしいということではなくて、そういう考え方になって総合計画のものをつくってきてほしいということを理解してもらえればええだけの話で。答えをどうというのは思っていないで、初めから、まずは。

(発言する者あり)

#### ○ 森 康哲委員長

そうですね。先ほどやりとりを見ておっても、川村委員は答えを求めて、答弁を求めているふうには見えなかったもので、その辺でちょっと終結したいと思います。

#### ○ 竹野兼主副委員長

今、お二人のお話で、きょうの部分については、前回の委員長で提言をまとめられた部分について、川村委員のほうは、前へむっちゃ進んでいく。きょうは、改めてこの前の意

見を用意してもらった中で、基本構想・基本計画というのを今皆さんに示していただいている。

その後、今川村委員が言われていたその思いのところ、行政側がどのような施策を進めていこうとしているのかというのを、これから各部局のところで提案をしていただくような状況になっているというふうに正副では聞かせてもらっていますので、思いはお二人、3人の思い、意見いただいた皆さんについては、いかにいいものをつくろうという思いが物すごく伝わってくるんですが、きょうのところについては、まず入っていくところが集まっていたら、その意見をというか、どんな提案があるのかを出してもらおうためのきょうの1日目だというふうに認識していただけると、多分もっとうまく進んでいけるんじゃないかなというふうに思っていました。

#### ○ 小林博次委員

話はわからんではないんやけど、議会の総括だけが総合計画に反映されるわけではない。市民意見とか、さまざまな意見が集約されて、きょう、多分このたたき台をつくられてきたと思うんで。だから、議会の側だけの話をこの総合計画、論議の中でしていくと、ずれが大き過ぎると思うよ。

だから、前回の総合計画の反省点は、前回、1年間前倒しをするという理由づけの中に、積み残しもあったやろうという議論があって、提言になったわけやね。その提言も何割かはこの中に入ってきておると思うので、それは施策の中でしか、実は議論しにくい中身になっているんやないのかなと、こんなふうに思うわけね。

だから、きょうのところは、その四つの都市像の、そのあたりに本当に含まれておるのかやというのがあるから、少し議論を絞ってもらったりという整理をしてもらわないと時間かかり過ぎると思うんやわ。だから、そのあたり、これは俺の考え方やから、ほかの人の考え方もあるので、ということなんやけど。

#### ○ 豊田政典委員

僕は、小林委員の意見の半分は賛成、半分は反対なんですけど、やっぱり議会は選挙も経て、いろんな市民の声を背負ってきているんで、市民意見を個々に聞いてもらうのとは別にね、最も重視してもらって反映していただくべき議論かなと思っています。これは違うところ。

もう一個は、軽く聞きますけど、議長を通じて市長に提言した五つの項目以外に、中間報告が出ているわけですよ。そこには、我々の個別の意見が集約されたものでないにしろ、個別の意見が出ている。これは反映なり検討なりされているのかどうか。確認だけでいいんですけども。

#### ○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

済みません。いろいろ大きな観点から、川村委員のほうからは意見をいただきました。

それと、豊田委員のほうから、提言、3月26日に、まず1枚のまとめとして五つの提言ということでまとめていただいております。今回は、その五つの提言に対して私どもの今の検討状況、こういう形で進めていきたいという考え方を示させていただいて、あくまで途中段階ですけども、示させていただいたと。

そのほか、前回の総合計画の基本目標五つごとに、それぞれ皆様の意見を23ページにわたってまとめていただいたものがございます。これは当然、提言をいただいた折に、庁内の会議なんかを通じて各部局にも周知を図りつつ検討するように指示をしております。

なので、今後、冒頭申しましたように、次回から6月、7月にかけて、部局を呼んで集中的に議論をしていくという中で、こちらの考え方も踏まえた説明ができればいいかなというふうに考えてございます。

#### ○ 豊田政典委員

冒頭言ったように、市民代表たる我々の意見ですから、検討の足跡もあわせて、検討の足跡を説明いただければと。

もう少しだけ聞いて。

#### ○ 森 康哲委員長

はい、どうぞ。

#### ○ 豊田政典委員

今の原稿がタイトルがあってね、みんなが誇りを持てるまち四日市とか、その下にも、何やらあります。そういうタイトルはまだ決まっていないとか、案として出ていないんですか。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

済みません。説明のほうが足らず、申しわけございません。

基本的には、四つの都市像というのを今回初めてお示しさせていただきました。当然、これも決まっているものではないんですけれども、私どもとしましては、その三つの重点的横断戦略プランにつなげる都市像と八つの基本分野別政策につなげる都市像として、まずは示させていただきましたと。

これに基づいて皆様から、これから部局の意見も聞きながら、その以下の目標等を定めていきたいというもので、あくまで都市像をこの案で進めていく中で、これから決めていく目標等が出てくるというふうにご理解いただければと思います。

○ 豊田政典委員

ちょっとわかりませんでした。まだ決めていないということですよ、題、タイトルは。簡単に答えて。まだそこまでは議論は至っていないと。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

まだ決まっていないというところでございます。この四つの都市像を踏まえて上に設けるのも含めて、これからの皆様のご意見をいただきながら定めていきたいというふうに考えています。

○ 豊田政典委員

それから、違うことを聞いていきますけど、人口について、人口、全ての出発点でありゴールだと僕は思っていますが、3月19日のこの委員会に出されている資料とか、それから、何とか何とか計画で2045年28万人というのが議会に示されている。

これは、今のところ、そのきょうの資料にまだ人口のこと書いていないんですけど、どういう考えなのか。また総合計画に書き込む意思があるのか。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

済みません。きょうのタブレットのほうの資料の49分の11ページから人口の動向というのをまとめさせていただいてございまして、これは12月の特別委員会のほうで示させてい

いただいたものでございまして、基本的には、四日市市の人口につきましては、49分の14ページに将来の人口推計を出ささせていただいています。

こちらにつきましては、基本、住民基本台帳から国立社会保障・人口問題研究所の出生率や生存率やその辺を踏まえた計画ということで、今のところ、2045年には28万人程度になるという推計を出ささせていただいているというところございまして、当然、将来人口の推計ということで総合計画のほうには見通しということでお示しをさせていただく予定でございます。

## ○ 豊田政典委員

これは意見ですけれども、前回、昨年度の特別委員会でもあった、僕は28万人ではとろくさい計画かなと思っていましたので、小林委員あたりも名古屋圏の一角なのかという議論がありました。

今回も、リージョン・コアとかいって名古屋圏がどうのこうのって書いてあるけど、過激な言い方をすれば、周辺都市をただ人口獲得して、もっと人口的にも発展するような都市、そんな計画にしてほしいなというのは私の個人的な思いなんで、とりあえず言っておきたい。

最後、レーダーチャート、前回も示されたやつで、ほぼまん丸。これも一般質問しましたけど、今までは、他都市と比べて足りない部分を補ってきた、そういう10年だったと。これからは特徴を持って、特徴的なまちづくりをしていくって話なんですけど、よくあるように、こんな四つの将来像とか、八つの基本政策を見ても、総花的ですよ。

そうなる、その上で、きょうの説明ではこの丸のところでどこかを突出させて伸ばそうとしているとなかなか思えない。そのあたりの考え方はどうなんですか。僕は、丸を維持しながら、さらに突出する特徴を出さないと、それこそ人口も獲得できないし、四日市なんて特徴的なまちとしてPRするには弱すぎるなと思ってずっと発言していますが、そのあたりの考え方を最後に教えてください。

## ○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

済みません。冒頭のまず人口のほうにつきましては、当然、重点横断戦略プランの三つをすることで減少させない方向で進めていきたいというところは基本としてございます。

それから、2点目のどこを伸ばすかというところでございますけれども、まだこれか

ら総合計画をつくる中で、今どれという決めているものではございません。

ただ、この三つの「子育てするなら四日市」であるとか、「リージョン・コアYOKKAICHI」「幸せ、わくわく！四日市生活」といったところで、四日市の特徴というところをここに三つに絞って出していくことで、伸ばしていくところというのをこれから見定めていきたいなというふうに考えてございます。

#### ○ 豊田政典委員

そうすると、この重点的横断戦略プランというやつは、単に部局を横断するというだけではなくて、この三つを打ち出したいということ、こんな捉え方をするの。これが特徴、これから伸ばしていく四日市の売りであるという理解をすることとしても、子育てならわかるけど、ほかのやリージョン・コアなんて中身がばくっとしていますよね。下の「幸せ、わくわく」、これは高齢者なのかな、よくわかんないですけども、売りにならないんじゃないかな、こんな、この計画のつくりではと思うんですけど。

意見にしておきましょうか。もうちょっと売りをつくらないとき。四日市、おもしろいことしておるで引っ越そうとかか思いませんが、そんなん。

以上。

#### ○ 森 康哲委員長

1時間たちましたので、ここで休憩とりたいと思います。再開は、この時計で午前11時15分再開にします。

それで、その他事項でスケジュール調整したいと思いますので、スケジュールがわかるものをお持ちいただければと思います、再開後。

11:03 休憩

---

11:15 再開

#### ○ 森 康哲委員長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

午前中、12時までを終了目途とさせていただきたいと思いますので、ご協力をお願いし

ます。

これからの進め方なんですけれども、新しい委員も何人かみえるということで、その方にそれぞれ質問をしていただいて、それで今後の進め方とさせていただきたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。

#### ○ 山口智也委員

じゃ、済みません。新しく入らせていただきました山口です。よろしくお願いします。

私から、重点的横断戦略プランの三つについて、少し基本的な部分で質疑させていただこうと思っております。

三つ、今回掲げていただいているんですが、リージョン・コアというところで、市長もよく最近、この言葉を使われているわけなんです、このリージョン・コアという言葉がそのまま今の案では計画に乗せていくという、この文言が載っていくというイメージなんでしょうか。

#### ○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

豊田委員のほうからは余りということで、もっとという話だったんですけれども、一応私ども内部で横断的に考えていくという中でつけさせていただいた名前ではありますけれども、当然、今からこれらの課題を整理してあるのがこの資料でございますけれども、当然、皆様の意見を聞きながら課題を整理しつつ、内容が変わってくるような形も考えられます。

なので、基本的にはこの名前で私どもとしては進めていきたいんですけれども、皆様の意見を聞きながら、これから修正も加えていくことになるかと思えます。

#### ○ 山口智也委員

豊田委員からはもう一步深い意味で、これが本当に四日市市のアピールになるのかという視点で質疑がされましたけれども、私は単純に、もしこの文言を使われるのであれば、やはり一市民が聞いても、見ても理解できるような文言にすべきだなというふうに思っております、このリージョン・コア、なかなか理解、聞きなれない言葉ですので、そこら辺の表現の仕方はまた検討していただくべきではないかなというふうに感想を持ちました。

その下の、これも豊田委員から冒頭、ご指摘ありましたけれども、「幸せ、わくわく！

四日市生活」、なかなかばくっとし過ぎてわかりづらいと。こちらは、どちらかという、我々の世代から高齢者の世代をターゲットにした分野なのかなというふうにするんですけども、これを例えば四日市が目指す、四日市が売りにする、豊田さんのご指摘のような、四日市が目指す、売りにするようになるような文言というところでわかりやすくいけば、例えば健康を目指すのであれば、健康日本一を目指す四日市であるとか、そういったもう少し的を絞ったというか、わかりやすい、目につくような、そういった文言にすべきではないかなという、やっぱりそんな印象を持ちましたので、これも今後ご検討いただければと思います。

もう一つだけちょっとお聞きしたいのが、この三つの重点戦略プランのうち、一つは、どちらかという若い世代、子育て世代から我々ぐらいの世代をしたプランなのかな。真ん中のリージョン・コアというのは、まちづくり全体をイメージしたようなプラン。三つ目は、高齢者のほうをターゲットにしたようなプランなのかなというふうに捉えておるんですけども、その中で、一番最初の「子育てするなら四日市プラス」のところの輪っかの一つに、「交通・賑わい」というのがありまして、子育てするならというそこら辺の世代に対して、交通施策というのがあるわけなんですけど、どちらかという、私は、その三つ目の高齢者の今、「幸せ、わくわく」というところにありますけど、ここにも交通ってあるんですけど、そちらのほうに集中していくべきではないかなという印象を持ちました。

というのは、ここにいる委員さんも皆さんそうだと思うんですけども、日ごろ毎日のように市民から、今喫緊の課題として高齢者の方の、特に郊外での移動手段をどうしていくのか、免許返納した後もどういった手段で病院に行ったらいいのか、これまた個別の議論の中で今後は出てくる話だと思うんですけども、ここら辺の整理の仕方が少し、「子育てするなら四日市」の部分にこれを入れ込んでいくのか、そうではなくて、やはり高齢者の部分でもう少しまとめて整理していくべきではないかなという印象を持ったわけなんですけども。

まず、そこら辺の整理の仕方、なぜこういうふうな整理をされたのかなというのを確認させていただきたいと思います。

## ○ 渡部政策推進課課付主幹

昨年度、高校生4500名の方々から高校生アンケートというのをさせていただきました。加えて、市長との懇談会をさせていただく中で、特に若者世代からご意見があったところで、ここに書いてあります移動アクセス、この辺をやっぱり何とかしてほしいと。もう一

つは、中心市街地を魅力的な空間づくりができるとすばらしいまちになるんじゃないかというご意見をいただきました。

この「子育てするなら四日市プラス」という概念の中には、子育て、保護者から見た施策と、加えて子育て、若者、子供から見たまちづくり、そういう概念も含めたいという思いの中で、この段階ではこちらのほうに位置づけをさせていただいたところであります。

なお、この交通という面は、山口委員おっしゃるとおり、交通弱者、いわゆる若者世代、車の免許を持ってない世代、あと高齢者、——最近では事故等々の問題が社会問題として顕在化しておりますけれども——そのあたりをミックスして、次の10年間でどういう施策を打っていくべきか検討を深めてまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

#### ○ 山口智也委員

わかりました。若者世代にとっても、この交通手段の確保というのがニーズとしてあるということで理解をさせていただきましたが、その三つ目の、私が特に思っている高齢者世代の交通手段の確保、これは喫緊の課題ですもので、三つ目の「幸せ、わくわく」というところの下の交通というところに、具体的には、自動運転、AI等を活用した交通基盤の検討というふうに文言としてありますが、これは具体的にどういったことをイメージされているんですか。

#### ○ 渡部政策推進課課付主幹

高齢者のほうですけれども、今、例えば自動運転といいますと、マイクロバス、バスタイプ、こういったものもありましょうし、セダンタイプ、自家用車タイプもあると。

もう一つ、類型として先進自治体で研究が進められておりますのが、パーソナルモビリティといいまして、ゴルフ場のカートみたいなちっちゃい、比較的1人ないしは2人で乗れるようなカートタイプのものを使って、日常の少しの距離だけれどもなかなか移動が高齢の方、しづらいわというところの研究が進むと、そういうことがありまして、四日市でもそういったものの社会実装についてどういうことができるか、やるとしたらどういう課題があつて、何を行政がしたらそういった課題解決が進むのかと、そういうものをこのテーマの中で検討を深めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○ 山口智也委員

そうすると、今よくやっている郊外での交通の社会実験なんかを、こういったものも実験していきたいというようなイメージを広角に持っているということなんですね。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

山口委員がおっしゃるとおり、都市整備部のほうで、おととしからデマンド交通の社会実験等をやっています。こちらのほう、どうしても四日市市のバス事業者のほうの運転手が足りないという現状があって、路線の増便ないし路線増というものにつながらないという現状がございます。

今後、きょうも5Gのようなことが基地局をつくっていくというのが報道をされていましたが、そういったところがこの10年進む中で、今、運転手不足を解消することも踏まえて、この自動運転で活用できれば、四日市市であれば交通の薄い西部のほうをクリアするであるとか、中心市街地は、先ほど渡部が言ったカートのようなものを使うだとか、その辺は仕分けをしながらいろんな検討ができるのではないかという思いもございます。

○ 山口智也委員

わかりました。

次のその計画の期間でこういったものが実現できればもう言うことない話ですし、ぜひ目指してもらいたいと思うんですが、本当に実現可能性が高いものであるのかどうかというの見きわめて文言を落とし込んでいかんと、本当にできるのか、できやんのかというところがやっぱり市民の期待につながっていきますもんで。

例えばもっとわかりやすく、この文言でいくんやったらもう言うことないんですが、例えば、社会的弱者の交通手段をしっかりと確保していくというようなことをわかりやすくもう少し落とし込んでいくべきではないかなという印象も持ちました。

それから、じゃ、あと一点だけ。

ちょっと個別のケースで本当に申しわけないんですが、今後の個別の議論の中でまたぜひ議論させていただきたいなと思っておるんですけども、子育てのところで、児童虐待のことについても少し文言で触れておられます。子供への虐待や暴力の防止というところ

を掲げておりますけれども、これについても、昨年度は四日市市で児童虐待に関する相談件数、ついに1000件を超えておりまして、非常に四日市でも重要な問題となっておりますので、ここら辺のしっかり取り組みのもっと具体的な記述の仕方であるとか、もっと踏み込んだ表現の仕方というものをぜひしていただきたいなという思いを持っておりますので、ぜひ今後の個別の部局との議論の中でさせていただければと思っております。

以上です。

## ○ 平野貴之委員

この重点的横断戦略プランについてちょっとご質問させていただきたいんですが、こういうふうの一つの課題解決のために、数字でほかの分野の課題も解決していくということは非常に素晴らしいことで、このSDGsにもものっとったものだなと思うんですが。

では、どのようにしてそういうふうに横断的に、部署をまたいでそういった一つの課題を解決する取り組みを進めていくおつもりか、その体制を伺いたいんですけれども、どんな体制でやっていくのか。

## ○ 佐藤政策推進部長

まだ、その実施に当たっての体制といいますか、今検討しているレベルなんですけれども、それぞれの、例えば都市整備じゃないと子育て関係ないよということじゃなしに、都市整備なら都市整備として子育てにてできることもいろいろ考えられることあるでしょうということで、それぞれの部局にこの三つのテーマ、それぞれについて検討をさせていただいているという、今はそのレベルです。

ただ、実施に当たっては、やっぱり最終的には、それぞれの担当課が実施することになるでしょうし、この重点の施策に関しては、我々の政策推進課のほうでその辺をコントロールはある程度していかないかなのかなと、進捗管理といいますか、そういう認識で今のところはございます。

## ○ 平野貴之委員

特別何か現役のいろんな部署の人が集まっているような会議体を設けるとか、そういうのではなくて、各部署に投げかけて、例えば都市整備なら都市整備の観点からの子育てに関する解決方法を吸い上げて、結局は子育ての部署がまとめていくという、そういう感じ

なんですか。

○ 佐藤政策推進部長

済みません。一つ言い忘れました。

今、その重点のこのプロジェクトというのが幾つか検討しているのがございますんですけども、それに当たりましては私どもも入り、それと各関係の部署も入り、ちょっと若手のほうでプロジェクトみたいなチームをつくって、そういった形で今検討は行ってございます。

実施のレベルまではちょっと、まだそこまでは考えてございませんので、これからになるかと思えます。

○ 平野貴之委員

こういう体制が実現できれば、これまでのこの行政の課題というのもすごく大きく解決されていくのかなと思いますので、この体制的にも非常にいい体質になっていくのかなと思いますので、試行錯誤をしながら研究を進めていただきたいと思います。

こういう重点的横断戦略プランというのを、まずこの三つの大きな施策を通じてやっていくということなんですが、資料の5ページの下のところだと、持続可能な都市経営を実現していくために、あらゆる分野において総合的、横断的な施策展開を図っていきませうというようなことが書いているんですが、これは、行く行くはこの三つに限らず、全ての施策においてそういった総合的、横断的な展開をしていくという、こういう意味なんですか。49分の5ページの下のところ。

○ 森 康哲委員長

どなたが。

○ 川村幸康委員

みんなで責任をとって、無責任体制やない。これを役所的に訳すとな、総無責任体制ですよという。

○ 佐藤政策推進部長

済みません。全ての、例えば事業について、全てやるかという、そういうことではないかと思うんですけれども、やっぱり職員一人一人が自分どころの分野だけしか見えていないということではなしに、市全体の事業の方向性といいますか、それはきちっと把握しながら、自分の責任のあるところで頑張っていていただくと、そういう意識は持っていったただかんなんだろうなというふうに思っていますので、そういう意識づけについては、いろいろと庁内でもやっていかなければならないのかなというふうに思っているところです。

○ 森 康哲委員長

平野委員、よろしいですか。

○ 平野貴之委員

はい。

○ 森 康哲委員長

小川委員。

○ 小川政人委員

まだ発言する段階ではなさそうや。

○ 谷口周司委員

済みません。先ほどのちょっと平野委員のところに近いところなんですけど、49分の5ページのところで、持続可能とか全庁的にという中で、これ、前回、言葉としてあったのかどうか記憶にないんですけど、今回、この提言に対する対応というか、今後に向けてというところで、「ありたいまち」の実現に向けというのが出てきて、これ、「ありたいまち」って多分前回、こういった言葉ってあんまり出てきていなかったかなと思うんですけど、これ、突然出てきた言葉かと思うんですが、この「ありたいまち」というのは、どういったことでこれが出てきたのか、イメージをちょっと教えていただきたいんですが。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

確かに49分の5ページのほうの重点的横断戦略プランの策定というところに、その文言、

「ありたいまち」というところが記載させていただいています。これは確かに今回初めてなんですけれども、49分の2ページの一番最初のビジョンの共有と目標の設定というところにも、オール四日市で「ありたいまち」の姿を示していくというところを記載させていただいてまして、今回、四つの都市像というのを示しましたけれども、さまざまな意見もいただいていますけれども、もう少し市民にわかりやすいというところで「ありたいまち」というところも示していくべきかなというところで記載をさせていただいています。

○ 谷口周司委員

じゃ、「ありたい」というのは、住み続けたいとか、何々したいとか、そういったことを含めて「ありたいまち」みたいな理解なんですか。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

そのとおりでございます。

○ 谷口周司委員

わかりました。

○ 森 康哲委員長

よろしいですか。

○ 谷口周司委員

はい。

○ 村山繁生委員

私、まあ、また個別具体的なときにまた発言したいと思うんですけど、しいて言うなら、この重点的横断戦略プランのやっぱり「リージョン・コアYOKKAICHI」と「幸せ、わくわく！四日市生活」のこの文言はちょっとまだぐっと来ないなという、それはちょっとまた、これは改良の余地があるんじゃないかなと。それだけです。

○ 森 康哲委員長

感想でよろしいですか。

○ 村山繁生委員

はい。

○ 豊田祥司委員

済みません。基本構想と基本計画の関係性で、重点的横断戦略プランで「子育てするなら四日市プラス」というところで、ここに観光が入っているのがいまいちぴんとなくなつて。

あとは、「子育てするなら四日市プラス」のところで、シティプロモーションがここだけ出てきていて、子育て世帯へ暮らしや生活の魅力を伝えるシティプロモーションということも、これもなかなかぴんとこないなというところで、もうちょっと考えがあれば聞かせていただきたいなと思います。

○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

済みません。資料のほうで、基本構想と基本計画の関係性の案というのを今回お示しさせていただきました。

ちょっと少し説明でも触れさせていただきましたけれども、四つの都市像があつて、それが重点的横断戦略プランにこうつながっていくという中で、分野別がそのどこに分類されているのかというところで説明をさせていただきました。

ただ、私どもも、まだまだこの分野がここでいいのかどうかというところはちょっと合わないところも出てくるのかなというのは、皆さんの意見を聞いて思っています。なので、この辺は、改めて整理をしていきたいというふうに考えています。

○ 豊田祥司委員

それでは、このシティプロモーションのあり方についてもちょっとお聞きしたいんですけども、この子育て世帯へ暮らしや生活の魅力を伝えるシティプロモーションというところで、もっとシティプロモーションってもっと大きな話なのかなとは思いつつ、ここだけ出てくるのもどうかなというので、先ほど言ったように、この場所でいいのかというところと、全体的にこの文言が必要なのかというところと、その辺のところもあるのかな

と思いました。

これ、意見だけでいいです。

○ 森 康哲委員長

はい。

他にございませんか。もうフリーでいきます。

○ 小林博次委員

個別具体的な中でまだちょっと聞きたいんやけど、例えば子育て・教育安心都市、これは四つ都市像の一つなんやけど、従来、この子育てをする、よそよりおくれておる分について追いつくと。この次の10カ年では、それに追い越せよという、こういう意思表示をしているんやわね。

ところが、今、子供の貧困が実際課題になっていて、生まれてから5歳ぐらいの子供がきちっと育てないと、一生その人の人格にかかわっていく、こういうことがあるんやけど、そのあたりをかなりつけ足していかなと、子育てするならということにはなりにくいんと違うかなという気がするで、そのあたりが入っているかどうか。個々具体的なところで議論したほうがいいのかちょっとわかりませんが。考え方の中にそういうのが入っているかどうかということ。順番に行ったほうがいいですね。

○ 森 康哲委員長

はい。

○ 小林博次委員

また後のほうで論議するならそっちでもいいんやけど。

○ 佐藤政策推進部長

済みません。今のA4の横のほうのペーパーの中なんですけれども、例えば貧困、ストレートに貧困という格好ではないんですけれども、家庭環境にかかわらずに学習できる環境確保とか、そういったことがやっぱり各所では出てくるようには考えていきたいと思えます。

ちょっとまだ具体的に今回お出しさせていただいたペーパー自体が、あくまで検討課題を今、例示をさせていただいたというレベルでございますので、引き続き——何度も申し上げますけど——また具体の提案の内容のときにいろいろご説明をさせていただき、ご意見をいただきたい、そういうふうに思っています。

#### ○ 小林博次委員

これはまた後ほどね。

その次に、もう一つ気になっているのが、高齢者の貧困率が今、国際的に日本が9番目、実際に今もう年金で生活できるのというところまで追い込まれてきているとおんやわ。

そうすると、健康をつくったりって書いてあるんやけど、そういうあたりももう具体的に入っているのかどうか。入っていないとすれば、やっぱり何かこの10年では次の一手が要るような気がするわけね。ということで、そのあたりがちょっと気になる。

#### ○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

済みません。そのあたり、三つ目の横断プラン、「幸せ、わくわく！四日市生活」になるんですけども、その高齢者の貧困という言葉は、今のところ、記載としては課題に上がってきてございませんので、きょうの意見を踏まえつつ、また、きょうの報道でも、生涯の夫婦の世帯が2000万円が要るというような報道もありましたので、その辺も踏まえて今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

#### ○ 小林博次委員

それから、前に市長のほうで産業・交流拠点都市、その中の交通とにぎわいの交通のほうなんやけど、デマンドタクシーをということで演説されていたことがあるんやけど、それを聞いたその地域の市民が猛烈に怒り出して、何で怒ったかという、タクシーで行けるのは、例えば、市長の住んでおる水沢から市立四日市病院までタクシーで行こうかと思う人はほとんどいない。金持っておる人は行くよ。

そうすると、貧困世帯がふえた中で、だから高齢社会の中で、果たしてそういう問題提起で正しいのかという、こういうことがあるわけね。

どこかの地域で、会員制でグループを集めて、車を持っておる人がガソリン代とか保険

とか、これは官が補償するかなんかわかりませんが、それで市立病院へ乗せていってもらったら、実費程度、ガソリン代程度支援する、そういうような対応しているところがあったわけね。

だから、こんな話すると、個々具体的になってしまうんやけど、こういうここに言うておる交通の中に、そういうことは入っていないのかと。今ちょっと説明、その前に説明あったから、その説明をそれはそれで実現するんならそれはそれでええんやけど。

金があれば、例えば今、小さい三輪車みたいに電動であるんやわ、おけやんでも。こういうふうにゆっくり数kmしか走らんけど。移動手段としては、高齢者はそれで十分かなと思うけど、例えば1台30万円も40万円もするのでよう買わん、そういうことがある。

だから、そのあたり、交通、庶民の足、これをどんなふうに規定しようとしているのか。これをもうちょっと説明が要るんと違うかなという気がする。

以上です。

## ○ 豊田政典委員

冒頭、市議会、この委員会の意見を最も大切にという話をしましたが、一方で、市民から意見聴取も大切だと思って聞いているんですけど、このスケジュールに示されているようないろんな会議体であったり市民意見聴取、これはよくできているなと思いながらですよ、思いながら、先ほど聞いているように、子育て、教育というのを一つの柱にしていこうというのは、うまくやれば売りになるかなと思いながら、個別具体的な話は今後の議論でまたお聞きしますが、高校生アンケートの話もありますよね。

3月の資料を見ていて、この特別委員会、3月19日、最も重視すべきは高校生がこういうふうにしてほしいとか、提案よりもですよ、83分の72にあるように、四日市市に愛着を持っている高校生は約4割しかいない。誇りを持っているのは2割5分しかいない。ほかの友達に勧められるか、3割しかいない。このことをもっと掘り下げるべきじゃないかと思いました。

今後のスケジュールを見ていて、例えばタウンミーティングをやりますけど、ここに出てくるのはこの地区の長老というか、大体おじいさん、おばあさんですよ。パブリックコメントをしても、今までの例でいくと、ほとんど限られている。

それよりも今の子育て世代とか、近い将来、子育て世代になるような高校生とか、なぜ誇れない、なぜ勧められないのか、なぜ愛着ないのか、これをもっと深掘りしてみても

うかなというふうに思いました。

関係団体との懇談会というのも予定している。これは具体的にどんな団体なのか。子育て世代とか高校生にもっと話聞くべきだと思いながら、関係団体というのとはどんな内容なのか教えてほしい。

#### ○ 渡部政策推進課課付主幹

関係団体との懇談会で、今予定している団体といたしまして、地区の防災協議会ですね。そちらと、あと商工会議所の青年部さん、こちらがちょっと具体的に検討しておるところです。

このほか、各部局からのこういった団体があるかをリストアップ今しておりまして、その中から幾つか候補としてこれから調整等々を進めていく予定でございます。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

まあ、年寄りの意見もいいですけど、若い世代の声を聞くことを考えるべきかなと思いました。検討してください。

#### ○ 川村幸康委員

豊田さんの言うのは全くそのとおりで、それが現実のことの今の神前の問題でな。子育て世代の意見と幼稚園のあり方、連合自治会を中心にした層との世代間ギャップが、今地域で起こっておるわけやから、そういう意味でいくと、なかなか声なき声、声を出しにくってところをどう聞くかということをやっぱり考えやんとあかんなと思っています。

それと、行政が総合計画何々、行政の体質的にあるのはな、耳ざわりのええ、優しい抽象的な言葉をよく使う、それはもう行政的な宿命も背負っておるで仕方ないと思っておるけど、やはりもうちょっとそこらは、さっき小林さんが言うておった高齢者の貧困とか、子供の貧困というのは、SDGsのところにはあるわけやわな、言語として出てくるわけやで。やっぱりそれは明記してもええんと違う。子供の貧困どうするか、高齢者の貧困どうするんかって。

俺、同和のところでもいつも言っておるのは、部落差別解消とかという話になると具体的に生々しいことを行政は使うもんで、結局、融和政策の中で同和事業というんやわな。同

和事業の持つておる意味合いが標語になってくると、結局、違うものを一つにしていくという事業やけど、実は違いも何もなかったところを一にするって無理もあったと思っておるんやわ。

だから、そういう意味で言うと、言葉の重みとか意味合いというのは後々に影響してくるで、やっぱり総合計画をつくっていく上においては、言葉のその使い方と使いぶりで行政的な、例えばなかよし給食って言ってみたりな、あんなん合理化給食やのに、そういう表現はやめるべきやと思う。

それと、聞くのは、この「子育てするなら四日市」の中に、子育て世代から選ばれる誰もが安心して子育て・子育てできるというのは、子育てと子育てはまた違うんか、これ、できるまちづくりを進めますってあるんやけど。子育てというのはどういうことを指すの、これ。

あるやろう。「子育てするなら四日市プラス」でな、子育て世代から選ばれる誰もが安心して子育て・子育てできるまちづくりってどういう意味なん。何か意味があって多分書いたやなと思うて。

#### ○ 森 康哲委員長

答えられますか。

#### ○ 渡部政策推進課課付主幹

こちら、子育てという趣旨は、策定委員会の子育てのメンバーの方、策定委員会さんからのちょっとご意見をいただいて検討に含めたキーワードでございまして、具体的には、子供自身には自分で育っていく力があるよと、それを、例えば子育てだけだと親からの目線の一方通行だけれども、子供の視点に立ってまちづくりを進めていくべきだ、そんなご意見をいただきまして加えさせていただいたところであります。

以上です。

#### ○ 川村幸康委員

そうすると、それは施策的には、いただいたら、それは個別具体的にもうイメージできてるわけ。俺、あんまりイメージできやんの。言葉の意味はわかるんやに、子育てと子育て。どんなことを施策的にはこれでまちづくりを進めるんかなと思ってさ。わからんな

らわからんでええし。言ったんを取り上げただけなら、それでも構へんし。

## ○ 渡部政策推進課課付主幹

具体的には、これからの個別の施策の議論にもなってくる部分がありますけれども、今出ているのは、きょうの議論でも出ましたように、児童虐待、こういったところをどうしていくかと、この10年間での大きな課題というところになっています。

それから、こちらのペーパーにも書いてございます、右上の教育支援のところですね。二つ目の家庭環境にかかわらずみずから学習できる環境の確保と、こういったところをどういう施策を打ち出してフォローしていくかというところ、例えばインターネット、タブレット等の社会への浸透、そういったものを捉まえて、対策、施策を有効に打てるか、それが今回のこの重点的横断戦略プラン、こちらの部分の鍵になってくるだろうということで今検討を深めておるところであります。

## ○ 川村幸康委員

最後です。

個別のことは、立体のことは——冒頭にも言ったけど——やっていくにしても、重点的横断戦略プランの三つ、これのやっぱり共通認識を我々と行政とでも一致させてほしいなと思っています。

例えば私は「子育てするなら四日市」は、豊田さんが言うように、売りになるようなものもそれは大切かわからんけど、例えばもう今ある保育園、幼稚園、小学校、中学校の義務教育の学校をどうしていくんやということとか、あとは、四日市にある高校とその発展にある看護大学含めた四日市大学をどうすんのか、ここがやっぱりきちっと柱になって、それから枝葉が伸びてくるならええけれども、そこの基礎をきちっと固めてからやるとかね、重点横断プランもね。

それから、「リージョン・コア」というのも物の見方なんやけど、名古屋がコアになった中で、四日市がもう一つの地方都市として存在感があるという言葉の説明はようわかるのやけど、物の見方やに、名古屋に勝てるわけないという物の見方もできるわけや。

名古屋の山が大きかったら、四日市に落ちてくる砂をいただくというのが俺の考え方なんやわな、リージョン・コアというものは。名古屋にライバル心を燃やして勝ってやろうと思ったって勝てへんのやで。名古屋の山が高くなりゃ、東京の山よりも名古屋の山のほ

うがわしらには影響あるのやで、そこでどういただくかという戦略で書く、そういうものならまだわかりやすいかなとは思ったり。

だから、「幸せ、わくわく」というのは、さっきの小林さん言うたように、より幸せで高いというよりは、今現状生きていくのも大変という社会から外れたところの人らとか、貧困の人らの層をどうするんかということをもまずは考えて、その重点施策があつて、その上でよりよいというならええんやけど。

だから、全部なかなか見えにくい、テーブルより下に置かれておるところの部分はどうするのかという戦略プランがあつて初めて上に成り立つということでない、私は基本計画があかんのかなと思つておるところをこの委員会の中でも主張していきたいし、それを酌んでいってほしいなというふうに思っています。

以上。

○ 森 康哲委員長

ちょっと待ってください。

先ほど豊田委員からと川村委員からも要望ありました、学生さんや、また子育て世代の声を聞くという部分なんですけれども、そういうチャンネルは検討していただけますかね。

確認なんですけど。今は説明の中にはなかったもので、ぜひそういうところの声も聞ける、そして反映できるようなね。

○ 川村幸康委員

おまえら、俺らが言うたこと聞くって最初は言うておきながら、全然聞かへん。

○ 森 康哲委員長

部長、どうですか。

○ 佐藤政策推進部長

ちょっと今どういう格好でとはよう今すぐ申し上げられませんが、ちょっと検討はさせていただきます。

○ 森 康哲委員長

よろしく申し上げます。

## ○ 樋口博己委員

このA3の横のこれでSDGsって書いてもらってありますけど、世界的には、どちらかという、人口増加にどう対応するかという話のが大きいと思うんですよね。日本は、逆に人口減少が大きな課題だと思います。

未来地図をどう描くかで人口というところで、30代、40代の子育て世代が増加し、転出に歯どめがかかっているというのは、今転出しておるからこういうイメージを書いていると思うんですけれども、さっきの市民のアンケート、声を聞くという話であったんですけど、これは、いわゆる30代、40代が転出するというのは、僕の実感ですけど、例えば僕の同級生なんかは、羽津で生まれて羽津で育ってきて、羽津に3分の1はおるんですよ。もう3分の1は、四日市を中心とした北勢地域におるんですよ。3分の1が県外に出ておるんです。中には、結婚して旦那を連れて帰ってきておる人もおるんですよ、同級生ではね。世代によって違うかも知れませんが。

それと、それで思うのは、仕事で四日市市にみえた人、四日市で生まれ育った人じゃない、仕事で四日市にみえた人が30代、40代になって転出しているんじゃないかなって僕は感じているんです。だから、四日市に仕事でみえた方、こういう方をどう四日市にとどめるかということも大事な視点かなと思ってまして。ちょっとそんなところの層をどうやって行くかようわかりませんが。だから、この人口で30代、40代、子育て世代をどう増加させるかというのは、ここが一番ポイントかなと思ってます。

それとか、東芝で働く人がどんどん転入していると思いますけど、20代男性がね。今度またコンビナート関係で大きな事業所があって、3000人、人が来るという話もありますけど、どこに住むんやという話もありますので、そういう仕事で四日市に来て、四日市に触れて、四日市のよさをそこで知っていただいて、四日市に住み続けられるような、そんな考え方もぜひともお願いしたいなと。

一つ、これ、要望させていただきたいと思います。

それで、ちょっとこれに関連して、ちょっと資料のことで数字の動きがわかっていたら教えてほしいんですけど、49分の15ページ、これ、何の資料ですかね、人口推計が載っているところがあるんですけど、地区別の人口将来推計ってありまして、2030年、2045年ってあるんですけど、これのちょっとわかたら教えてほしいんです。河原田地区がど

んどん人口が極端に、ベースは少ないですけど、どんどん人口がふえていっているんですけど、これ、何か理由があるんですかね。

逆に、水沢は減っているのは何となくイメージできますけど——ええ悪い別としてね——河原田は何かそういう人口がふえる要素があるわけ、あるんだと思うんです。こういう人口、四日市市内の地区別の人口の動向もいろんな背景とか理由があって動いていると思うので、こういったものをちょっとよく分析いただきたいなと思ってちょっとお聞きするんですけれども。もしわかれば教えてください。

#### ○ 伊藤政策推進部次長兼政策推進課長

河原田地区におきましては、この一番、2045年のところを見ていただきますと、増減率31.2%ということが多いということで、この分析というところなんですけど、基本的に、昨今、ミニ開発がかなり多いという状況があって、その動向をどうしても勘案すると、このような状況になっているというのがこの推計の結果となっているものでございます。

#### ○ 樋口博己委員

そういうことであれば、大規模開発というよりはミニ開発という話ですね。でも、それだけの、要するに土地があるという話ですよ。そういうところは人口、大矢知なんかはミニ開発、どんどんどんどんふえているという話なんですけど、それを土地利用——川村さんなんかはよく土地利用って言われますけど——四日市の土地をどう使っていただくかということも人口には大きな関係すると思うので、そういった視点も今後、議論いただきたいなと思います。

以上です。

#### ○ 森 康哲委員長

時間もそろそろ参りましたので、この程度にさせていただきたいと思いますが。

#### ○ 小川政人委員

一つだけごめん。

あんまり、いろんなこと頑張らんでもええでさ。無理して役所が頑張ってもろくなことができへんのやで、市民の暮らしがしやすいようなお手伝いだけをきちっとしてほしいん

やわな。

それから、子育てって言うたで、具体的に、富洲原の児童館を一遍見てきてみい。どれだけ子供の需要があって喜んでおるかというのがわかる。いいところは伸ばしていかんとな。

だから、子育て支援って物すごいずっとおくれておったんだけど、そういう部分で四日市のいいところは伸ばしていかなあかんし、あくまで主役は市民やから、市民のお手伝いをするという、どうしたら市民が暮らしやすくなるかというお手伝いをきちっとするぐらいのつもりで、計画を立ててほしいなと思う。

以上です。

○ 森 康哲委員長

それでは、議論もきょうはこれまでといたしたいと思います。

○ 竹野兼主副委員長

総括です。

○ 森 康哲委員長

2項目めのその他事項に入ります。

理事者は。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

それでは、その他事項に移ります。

次回以降の開催日程につきまして、候補日を事項書に掲示させていただきました。正副委員長の案としましては、部局ごとに次期総合計画に載せる内容を調査するために、午前、午後を通して調査をする日程を3回程度確保したいと考えております。

事項書に示させていただいたとおり、午前、午後いずれも確保できる日程は、6月27日、7月2日、7月5日、7月10日の四つでございます。

全部局について調査を行うということからまとまった時間が必要となるため、場合によ

っては都合のつかない方が数名いらっしやっても、申しわけございませんが、この四つの日程の中からできる限り委員会の開催日程を確保させていただきたいと思っております。

さらに、部局によっては調査が長引き、日程が押していくことも考えられますので、追加で、7月11日の午前、12日の午後などを確保したいと考えております。

また、最後には部局によらず、広く意見をいただく場を設けたいと考えていますが、そのような形で進めさせていただきたいんですが、よろしいでしょうか。

○ 小林博次委員

ちょっと待って。

これ、7月2日と3日、連続でとは違うわね。

6月27やって、7月2日やって、7月5日やって……。

○ 川村幸康委員

これ、全部やるの。

○ 森 康哲委員長

この四つのうちの3回やりたいんですわ。

一応公務が入っていない日程で、午前、午後通しの日がこの四つの日なんです。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

まずは、この四つの中で三日間を決めたいんですが、皆さん、スケジュールよろしいでしょうか。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

まず1個ずつ聞いていきますね。

まず6月27日、これは午前10時半からということになります。

(発言する者あり)

○ 小林博次委員

何で午前10時半からなん。

○ 森 康哲委員長

調整会議が午前10時からありまして、15分程度かかるということで、午前10時半から特別委員会。

○ 竹野兼主副委員長

これまでの状況を見ていくと、30分ぐらい程度で調整会議を終わられているので、6月27日の午前10時半からと午後を続けてやらせていただくという日程なんですけど。

○ 豊田政典委員

午前、都合悪いです。午前だけ。

○ 森 康哲委員長

じゃ、通しなので、やらせていただいてよろしいでしょうか。とりあえず午後からでいいので。とりあえず一日。

○ 豊田政典委員

とりあえず。

○ 森 康哲委員長

はい。確保させていただきます。

はい。7月2日。

○ 川村幸康委員

これ、午後は何時からあるの。午前10時半から12時と……。

○ 竹野兼主副委員長

午後1時から。

○ 川村幸康委員

午後1時からになるのね。

○ 小林博次委員

午後1時半からにしてくれ。

○ 森 康哲委員長

午後1時半からですか。

○ 小林博次委員

夜中でもええけれども。ちょっと午後1時半ごろに……。

○ 森 康哲委員長

皆さん、午後1時半からでよろしいですか、午後は。

○ 小林博次委員

どうして。

○ 川村幸康委員

わし、午後1時からしか……。

早う終わってほしいなと思って。午後4時からちょっと用事がある。

○ 小林博次委員

時間は午後5時15分までやってもらってもええけど。

○ 森 康哲委員長

一応通しということなので、その午前中終わる時間を見て再開時間は決めたいと思います。

それでよろしいでしょうか。

○ 小林博次委員

先、時間決めておいてくれやんと。

○ 森 康哲委員長

通しなので……。

○ 小林博次委員

その都合で時間変更するというと、空いた時間で問題処理したいときがあるんで。

○ 森 康哲委員長

それでは午後1時からにしたいと思います。午後は1時再開。

○ 小林博次委員

大体午後1時半にやっているの違うん。

(発言する者あり)

○ 小林博次委員

ほとんど。

○ 森 康哲委員長

通しの場合は本会議でも午後1時からだと思うんですけども。

はい。よろしくお願いします。

○ 小林博次委員

特別委員会とか委員会、午後1時半やろう、今。

○ 樋口博己委員

夕方の終了は。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

午後4時半目途で。はい。

○ 竹野兼主副委員長

午後4時半になっていますけど、早く終わることもあり得る。

○ 森 康哲委員長

その辺は皆さんと調整しながら。

7月2日はいかがでしょうか。

○ 村山繁生委員

午後4時から港のほうでレクチャーがあるんですそれ、終わり次第。

○ 森 康哲委員長

村山委員以外。

○ 村山繁生委員

僕だけやと思います。

○ 森 康哲委員長

よろしいでしょうか。じゃ、7月2日も開催させていただきます。

○ 村山繁生委員

終わり次第行きます。

○ 森 康哲委員長

はい。ということは、3日は二日連ちゃんになるので、これはもう削除させていただきます。

○ 川村幸康委員

これも午後4時半目途に。

午後1時からね。

○ 森 康哲委員長

はい。

次、5日でいかがでしょうか。5日は全員よろしいでしょうか。

○ 川村幸康委員

私、午後があかんけど。午後なら仕方ない。午前はだめですけど、午後からやって。

○ 森 康哲委員長

7月10日を1回聞きます。10日はどうでしょうか。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

10日は全員大丈夫でしょうか。

じゃ、5日はやめて10日、通しでということ。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

もう一度確認します。

6月27日午前10時半から通しで一日、午後4時半を目途に終了ということによりよろしくお

願います。午後の再開は1時からということで。

7月2日も午前10時再開、そして終了は午後4時半と。

もう一日が、7月10日午前10時より、終了は午後4時半を目途にお願いしたいと思いません。

それと、7月11日と12日なのですが、進みぐあいによっては部局のまた延長という形で予備日として押さえさせていただきたいんですが、都合の悪い方みえますでしょうか。

○ 川村幸康委員

11日の午前は私、12日やったら大丈夫ですけど。

○ 豊田政典委員

12日午前だめ。

○ 竹野兼主副委員長

じゃ、12日の午後。

○ 森 康哲委員長

12日の午後。

○ 川村幸康委員

これはやけど終わらんだらやろう。

それは、そうしたら、また10日に決めたらええやん。

○ 森 康哲委員長

はい。一応、仮押さえで押さえさせていただきます。

午後は1時半からです。

○ 小林博次委員

7月12日の午後は、1時から予備なんやね。

○ 森 康哲委員長

午後1時半からで。

○ 小林博次委員

何でこれは午後1時半なんや。

○ 森 康哲委員長

通しではないので。

○ 小林博次委員

いいかげんなこと言うておったらあかんぞ。

○ 森 康哲委員長

午前から通しだと……。いやいや。

(発言する者あり)

○ 森 康哲委員長

はい。ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 森 康哲委員長

よろしくお願いします。

それでは、次回は6月27日午前10時半からといたします。

本日は、これにて終了したいと思います。お疲れさまでした。

12:10 閉議